

# 狂犬病

## Rabies

狂犬病は発症すると死亡率がほぼ100%の恐ろしい人と動物の共通感染症です。日本では狂犬病とよばれるので犬だけの伝染病だと思っていませんか？実は猫をはじめほとんどのほ乳動物が感染する病気なのです。

日本では1957年以降発生の報告はありませんが、世界でも狂犬病が発生していない国は日本、英国、オーストラリア、ニュージーランド、スウェーデン、ノルウェイ、フィンランド、ポルトガル、ギリシャなど数カ国しかなく、今でも全世界では年間推定3~5万人の死者が出ているといわれています。1999年にはお隣の韓国で人の死亡例が発生しており、中国でも毎年数千人が命を落としています。動物の輸出入が盛んになった今日では油断は禁物です。

### 原因

狂犬病の原因は狂犬病ウイルスの感染によりおこります。感染は主に狂犬病ウイルスを持った動物に咬まれることによる唾液との接触感染です。自然界では、コウモリ、スカンク、狐の感染が確認されており、我々に身近なところでは、犬と猫が感染します。

### 症状

主な症状は、攻撃的な性格になり涎を流す。麻痺、痙攣発作。水を怖がる(狂犬病は別名、恐水病ともいいます)。異常な興奮状態などで末期には昏睡状態となり3~4日程度で死亡します。

### 診断法

死亡した動物の脳を病理組織学検査するか、特殊なウイルス分離試験、遺伝子検査などを行いますが、どちらも一般の動物病院では不可能ですので専門の検査機関に依頼することになります。

### 治療法

狂犬病は治療できる病気ではありません。狂犬病が疑われる場合は隔離、様子観察を行い、安楽死などの処置が必要となります。

### 自宅での看護法

狂犬病は重大な人と動物の共通感染症ですので人間への感染の危険性があります。そのため自宅で看護できることはありません。

### 予防法

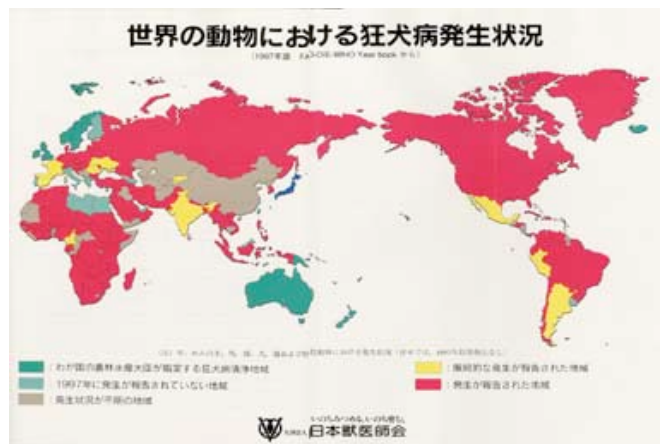
ワクチン接種で予防するしかありません。日本では狂犬病予防法により生後90日を経過した犬は年に一回のワクチン接種が義務づけられております。この病気は近隣諸外国ではいまだに発生しており、減少する傾向はまったくみられません。現在いろいろな動物が生体で輸入されていることを考えると、日本でも発生の可能性は否定し切れませんので、世界中から狂犬病が撲滅されるまで、日本人の義務として狂犬病予防注射は年に一回必ず受けましょう。

### メモ

狂犬病予防注射は市町村で行われる集合注射以外にも動物病院で可能です。接種を忘れていた方はお近くの動物病院へご相談ください。

また、人が犬に噛まれた場合は、急いで病院(人間の)に行き、処置をしてもらってください。人の場合、狂犬病ウイルスの特性から噛まれてもその後にはワクチンを数回接種することにより発病を免れる可能性があります。咬傷後、傷口を丁寧に洗浄し、0, 3, 7, 14, 30日の5回ワクチン接種が行われており、場合によっては90日目に6回接種をすることになっています。初回接種時に人狂犬病免疫グロブリン20IU/kgの併用をWHOは勧めていますが、現在国内では入手出来ません。

なお、日本だけではなく、外国へ行っても見知らぬ犬や猫、野生動物にむやみに触らないように注意しましょう。日本での最後の発症は2006年フィリピン旅行で犬に噛まれた人です。



ペット用品通販サイト

**ワンちゃんヨムモバイル**

[広告] ▲上記QRコードで携帯から簡単アクセス可能..

\*\*\*当院のホームページ上のPDFファイルなら動画や音などがご覧頂けるものもあり、より病気について理解できます。他にも様々なコンテンツや情報を掲載しております。ぜひ下記URLにアクセスしてください\*\*\*